

一宮モーニングのキャラクター「ICHIMO(イチモ)」



この習慣は文化となり、一宮市民にとって、モーニングは「普通」という感覚になった。「県外の方から『これは誇れる文化ですね』と言われることもありますが、誇るなんてものではなくて、空気がいいものではないと困るもの。当然のようにそこにあるものなのです」と森会長。人それぞれ馴染みの店が決まっている、日常のルーティンになっているのが一宮スタイル。一宮モーニングは、単なるお得なサービスではなく、暮らしの一部であり、市民のつながりの場なのだ。「来た人に何かもてなしたい」というこの地域に根付いていたサービス精神が、「モーニング」という形となり、今、各地に広まっています。



毎年発行されている一宮モーニングマップ

一宮市民にとってのモーニングとは

個性あるお店がいっぱい！

昨今では、茶碗蒸しや陶板ベークコンエッグ付などモーニングセットは多様になっている。一宮市内には500店舗以上の喫茶店がある。しかし、似かよった店はないと言っても過言ではないだろう。そんな一宮市の喫茶店巡りを楽しむため、市内の喫茶店を紹介する「一宮モーニングマップ」が発行されている。

# 一宮モーニングを探る



尾張周辺の喫茶店には、驚きのサービスがある。朝、コーヒーを注文すると、トーストやゆで卵などが無料で付く「モーニング」サービスだ。今でこそ各地に広がりを見せるが、その発祥は愛知県一宮市とも言われている。このユニークな喫茶文化はどのようにして始まったのだろうか。一宮商工会議所一宮モーニング協議会会長の森隆彦さんに話を聞いた。

提供：アールグレー

## 一宮市のイベント情報

### おりもの感謝祭一宮七夕まつり

7月28日(木)～31日(日)

昭和31年(1956年)から続く一宮市の最大イベント。日本三大七夕まつりに数えられ、本町商店街や真清田神社などが絢爛豪華な吹流し飾りで彩られる。

また、2022年は、国内最大規模の国際芸術祭である「あいち2022」が、一宮市を会場の1つとして7月30日から10月10日まで開催される。

(情報提供:おりもの感謝祭一宮七夕まつり協進会)



## 一宮モーニングが生まれるまで

### お茶休憩のころ

モーニング文化の発祥は江戸時代までさかのぼる。当時、尾張にはお百姓さんたちが、農作業の休憩に抹茶を点て、おしゃべりをする習慣があった。その習慣は、庶民の間で過熱し、文政12(1829)年、藩主が禁止令を出したほどだった。「そんな歴史的事実があるくらい、尾張にはお茶を飲んで休憩する習慣があった。そんな土地柄です」と森会長は言う。堅苦しい作法はなく、抹茶とありあわせのお菓子で団樂を楽しむ。禁止令が出されても、その習慣はなくならなかった。その後、茶席にコーヒーが台頭し、文明開化が進むが、そのころは根強く受け継がれていく。

### 機織りのまち一宮市

毛織物の街として発展した一宮では、戦後、機織り機が「ガチャン」と動くと、当時のお金で1万円儲



一宮商工会議所一宮モーニング協議会会長の森隆彦さん。1959年生。一宮市で生まれ育つ。市内で織物会社の社長として活躍する傍ら、2009年の設立当初から一宮モーニング協議会に携わる。

かるという「ガチャン景気」に沸いていた。工場は「ガチャンガチャン」とうるさく、繊維業を営む、いわゆる「はたや」さんは、商談のため、昼夜を問わず頻繁に喫茶店を利用するようになった。そこで気前のいい店主が、朝のコーヒーにゆで卵とピーナッツを付けたところ、そのスタイルが定着。「僕はおもてなし文化と呼んでいます。江戸時代から引き継がれている『お茶を飲んでおもてなしする』という文化が『1日に3回も4回も来るお客様に毎回コーヒーだけ出すのもなんだし、これ食べる?』という流れになったのだと思います。」